

## 【金平糖】

中野 誠

もう22年も前のことですが、きっかけは取引先の方がクロコダイルの背中の模様を作っていたので、私も挑戦してみたのが始まりです。

最初は、オーバル型の石でしたが、作っているうちに金平糖の形に似ていると思い、丸い石を削り出したことによって生まれた作品です。

小さな石での作業でとても手間がかかるため、他に作っている人はいないと思います。

仕事を受けている作家さんが試作品の金平糖を見て気に入り、“私がデザインを考えてあげる”と声を掛けてくれ、チョーカーやピアスに仕上げられました。

手間にかかる分私の愛着も強く、商品として提供することもあります。妻にプレゼントすることも多いです。妻の喜ぶ顔を見ると、また作ろうと思うんですね。



## 金平糖

こんべいとう


【サイズ】 直径：約7mm

【素材】 緑色：クリソプリーズ  
 青色：シーブルーカルセドニー  
 水色：アクアマリン  
 茶色：シトリン  
 紫色：アメシスト



craftsman jewelry file.14  
 makoto nakano  
 2018 June

craftsman jewelry



 山梨ジュエリーミュージアム

山梨県甲府市丸の内1-6-1 山梨県防災新館1階

http://www.pref.yamanashi.jp/yjm/

開館時間：10:00~17:30(最終入館17:00)

休館日：火曜日(祝日の場合はその翌日)、年末年始、  
 その他、臨時に開館・休館することがあります。

入館料：無料

駐車場：92台 山梨県防災新館地下有料駐車場(来館者は1時間無料)

## 家業が嫌いだった20代から 自分の方向性を見つけた30代

中野研磨工業所は、それまで他の仕事をやっていた父が40歳を過ぎてから始めた会社です。私は将来的には跡を継ぐとは思いながらも、家業が好きになれずに高校卒業後は横浜で会社員をしていました。

2年後に家と会社を建て直すのをきっかけに戻ってきましたが、最初の2~3年は何をしていたのかよく覚えていません。父に習いながらも父と同じように仕事をやっていけるのか不安でしたが、4~5年目には石を丸い山形にカットするカボションが出来るようになりました。

宝石美術専門学校へ入学したのは26歳の時、父の世話になっている人から学生を募集しているのを紹介され、第1期生として入学できました。

2年間は、楽しく勉強しながら、様々な所から集まった色々な世代の人達と知り合うことができました。そこででの出会いは、卒業後の今でも仕事のつながりに活かされています。

卒業後、取引先の仕事などから様々な技術が習得でき、それが自信に繋がり、自分で工夫ができるようになりました。

31歳で結婚すると“家族を養わなければ”という思いから、さらに必死で頑張りました。

その頃の研磨業界は、カット、彫刻、穴開け等分業されていましたが、職人さん達が高齢化していく中で、一つの仕事の中にファセットカット(ラウンド、オーバルブリリアント、変形カット等)、彫刻、枠合わせなどの要素が入った仕事が増え、結局自分で全て対応することが求められるようになってきました。そこで、これからの時代は、全ての加工が出来なければと思い、努力してきました。

現在の若い職人さんたちは、何でも加工でき、なおかつ自身の作品のデザインをするオールマイティーな職人さんを目指している人が多いようです。

## ニーズに応えることで掴んだ 様々な技術

一通りのことが不安なく出来るようになったのは、ここ5~6年くらい。でも、それで安心してると時々今まで経験したことのない難しい技術を求められる仕事の依頼が来る。それにチャレンジすることでスキルアップさせてもらえるんです。

今でも悩むのが「母の形見を直してください」「使っていたら欠けてしまったので直してください」というリカットの仕事です。扱ったことのない種類の石が来たりすると、専門学校の授業で使った宝石学の教科書を出して、その石を調べています。やり直しがきかない分、本当に緊張しますね。でも、それが経験値となり次の仕事へと繋がってきました。

作家さんとの仕事は難しく、宝石の厚みやアウトライン、雰囲気までこだわりに合わせて作らなくてはいけないようなシビアな注文が多いんです。デザイン画に忠実に作らないといけない。新しい技術の習得も、機械の導入も、全て必要にかられていることです。

最近手掛けている女性のジュエリー作家さんの仕事では、作品毎の様々な要望に応えています。彼女のデザインした地金と組み合わせられ、商品として東京のブランド店舗に並んでいます。

# 求められる技術を手探りで追求。 日々の探究心で次のステップへ。

## 作る楽しさを伝え、 生徒たちと向き合うことで受ける 新しい刺激

宝石美術専門学校の講師は、11年前にカリキュラムが変わった際に依頼が来て始めました。その頃には作家さんの仕事を受けて、ある程度のことは経験してはいましたが、人に教えられるか戸惑いました。でも私の持っているノウハウなら伝えられると思い、引き受けることに。

授業する際に大事にしているのは、生徒がまず授業を楽しむこと。1年生は入学して最初の授業で原石を削り出して磨く作業から始めます。自分が磨き上げた石を洗浄するとキラキラと輝き出すんですが、それを見た生徒たちからは必ず「わ〜」と歓声が上がります。一番最初のこの輝きを、“私が仕上げた”という満足感を忘れないで欲しいですね。

宝石美術専門学校の授業形態が、2年制から3年制に移行した現在は、3年生に人工石ルビー、サファイア、スピネルなどの高硬度石のファセットカットの研磨指導にあたっています。

今年で12年目になりますが、続けられているのは生徒達の表情や発想が豊かで面白いからかな。



craftsman jewelry

vol.14



中野 誠(なかの まこと)

一級宝石研磨士  
山梨県(知事認定)宝石加工ジュエリーマスター  
山梨県立宝石美術専門学校 非常勤講師  
中野研磨工業所 代表

中野研磨工業所  
甲府市中央3-4-1  
Tel:055-235-7805